

2013 年度一般研究助成

受刑者の特性理解とその特性に基づいたフォローアップ・プログラムの開発

研究代表者 大宮 宗一郎 (千葉大学)

➤ 研究の概要 (助成開始時)

平成 23 年度の統計データによると、平成 22 年のわが国の再犯者率は 40%以上、再非行率も 30%以上と過去最高の割合を示しており、わが国における再犯防止対策は極めて重要な課題である。現在、受刑者に対する介入プログラムが推進されはじめているが、受刑者が出所後に社会に適応し、生活を営むための問題解決能力を高めるトレーニングや、受刑者個人の問題性に着目した介入の不足、介入プログラムの効果を測定する方法の未確立などの課題が残されている。

そこで本研究では、受刑者の特性に応じた効果的なプログラムを実施、開発するために、受刑者個人のパーソナリティ特性、問題解決能力、心の健康度を調査し (研究 1)、認知行動療法ベースとした介入プログラムを実施するとともに、介入前後の各パーソナリティ特性の問題解決能力と心の健康度の変化を検証する (研究 2)。研究 1, 2 の知見や諸外国の文献研究を踏まえ、介入前後の変化が小さかったパーソナリティに対する効果的なフォローアップ用プログラムを作成する (研究 3)。本研究は再犯防止に主眼を置いているが、予防教育への応用も見込まれ、少年非行や犯罪の予防対策にとっても意義深いものとなる。

➤ 選考委員会からのコメント

再犯防止のための有効な介入プログラムが強く求められている時代である。本研究は、刑務所受刑者を対象としたものである。認知行動療法ベースのプログラムによる介入が、実際にどのように有効かを実証する研究であり、研究の意義は大きい。